

大学出版

6号

'88秋



大学出版部協会

Association
of
Japanese University
Presses

北海道大学図書刊行会
Hokkaido University Press

慶應通信
Keio Tsushin Co., Ltd.

産業能率大学出版部
Sanno Institute of Business Administration

玉川大学出版部
Tamagawa University Press

中央大学出版部
Chuo University Press

東海大学出版会
Tokai University Press

東京大学出版会
University of Tokyo Press

東京電機大学出版局
Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会
Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会
Science University of Tokyo Press

法政大学出版局
Hosei University Press

明星大学出版部
Meisei University Press

早稲田大学出版部
Waseda University Press

名古屋大学出版会
The University of Nagoya Press

関西大学出版部
Kansai University Press

九州大学出版会
Kyusyu University Press



大学出版
6号

Fall・1988

| | | |
|---------------------------|-----------------------|----|
| 大学出版部協会と私 | 山田 渉 | 1 |
| 中国の出版事業と大学出版社について | 麻 子英 | 3 |
| 訪中報告 | 山田 渉 山下 正 小野沢公男 | 10 |
| フランクフルト・ブック・フェア | 山口雅己 | 12 |
| 大学出版部協会 創立二十五周年記念と感謝の会 | 高野昭吉 | 15 |
| 大学出版部ニュース | 井尻千男 | 18 |
| 学生と読書（書評―石井和夫著『大学出版の日々』） | | 22 |
| 新刊案内'88・4／9 | | 23 |

大学出版部協会と私

—大学出版部協会幹事長
就任のご挨拶にかえて—



山田 渉

(東海大学出版会出版部長)

大学出版部協会は本年、創立二十五周年を迎えて、去る六月三十日に私学会館にて「記念と感謝の会」を各界の多数のご来賓のご出席を得て盛大に挙行することができました。

思いかえせば、私と大学出版部協会とのつながりも二十五年の間続いてきたこととなります。と申しますのは、確か一九六二年に東京大学出版会の箕輪成男さんがロックフェラー財団の招きでアメリカの各大学出版部を訪問されたり、アメリカ大学出版部協会の年次大会に参加されたりして、日本にも大学出版部協会の設立を意図されて奔走を始められた頃、私は東海大学にあって松前重義総長に大学における出版部の存在意義を進言いたしておりました。松前総長は若い頃より出版事業に対して理解と情熱を持って

おられたので直ちに出版会設立の認可が得られ、同年四月には大学の総務課の一隅で机一つと一人の女性アシスタントをもって東海大学出版会が産声をあげました。そして出版業務の実務知識については、東京大学出版会の箕輪さんと中平千三郎さんの両先輩から懇切なご教示をいただき、まず『松前重義著作集』(全十巻)の刊行を第一弾に出版活動を始めることができました。今も深く感謝いたしております。

おかげで、翌一九六三年六月の大学出版部協会設立総会には、参加の十大学出版部の一員としてかろうじて馳せ参じることができました。皆さまと共に協会発足の第一歩から足並みを揃えることができたことはまことに幸いでした。以来二十五周年にわたり箕輪初代幹事長はじめ二代目の中平さん、三代目の石井和夫さんと東京大学出版会創立メンバーである三幹事長のもとで、会員校として協会の着実な活動と発展のためにいささかなりともお役に立つことができたことは、私にとっても思い出深い喜びとなっております。

このたびは、協会創立二十五周年の節目の年にあたり、不肖私が四代目の幹事長の大役をお引き受けすることになり、歴代の三名幹事長のあとを継いで何とかその責を果たしたいものと微力を尽くす所存でございます。幸い副幹事

長に東京大学出版会の山下正さんを迎え、加盟出版部より選任された幹事の方々、編集部会、営業部会の各部会長と新役員の陣容も整い新たな歩みの第一歩を無事に踏み出すことができました。

われわれ大学出版部に課せられた使命の一つに学術研究書の刊行がありますが、市販性や採算性の上からもその刊行が困難になってきた昨今の深刻な読書環境の中では、文部省のほかにも公私の各団体や財団からの財政援助が切に望まれておりました。このような状況のときにあたり、一九七九年に当協会が日本生命財団より「学術書出版助成」の提供を申し受けることになり、以後毎年この助成にあずかり来年で十年目になりますが、おかげでこの間に加盟の各出版部から優れた学術図書が計一〇八点も刊行できたことは、われわれには、大きな励しともなり、まことに感謝にたえないのであります。

これは、石井前幹事長の非常なご尽力によって導入され今日まで継続されてきましたが、私は最初石井さんよりこの制度のお話しをお聞きしたときは、井戸の中の蛙であった協会がこれでいよいよ大海に飛び出せたという思いを深くした記憶がございます。なお石井さんには今後とも当協会の常任顧問として引き続き刊行助成担当主幹の労をとっていただけることになり、心強く存じております。

また、わが国の出版界の一角に当協会が確固たる地歩を占めることができましたのは、中平さんの熱意あるご指導によるものであり、とくに力を入れて開拓された中国および韓国の大学出版部協会との交流と提携活動は、私は学術研究とその出版の国際化時代に対応するこれからの大学出版部の国際出版交流の道をつけていただいたものと考えております。

今日、各大学とくに私立大学を取りまく環境は、十八歳人口の急増と急減による一九九二年の危機に向けて、ひしひしと厳しさを増して揺れ動いておりますが、私はこのような状況のときこそ大学の存続と発展のためには、大学における出版活動が必要不可欠であると存じます。そのためには、われわれ各大学出版部がさらに結束を固めて大学出版活動を活発に展開し、これにより多くの新しい大学出版部の誕生と参加を誘発させ、側面よりの推進と支援の手を差し伸べることができるよう努力しなければならぬと考えております。

私は微力ではありますが、大学出版部協会の存在意義を再確認し、加盟十六大学出版部の同志と共に次の四半世紀に向けての協会の新たなる発展を期して努力いたす所存でございますので、これまで以上のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

中国の出版事業と

大学出版社について

麻 子 英 (Ma Ziying)

北京 大学 出版社 社長
中国 大学 出版社 協会 常務 理事
国際 合作 出版 促進 会 理事

筆者略歴

一九三〇年 河北省に生れる

一九四五年 華北連合大学政治理論学科卒業、解放軍政治宣伝部勤務

勤務

一九五八年 北京大学外国留学生担当、北京大学教務部長

一九七四年 北京大学社会科学友好団団長として京都大学人文科学研究所を訪問

一九七九年 北京大学出版社社長に就任、創立にあたる

一九八五年 中国大学出版社代表団団長として来日

一九八八年 中国出版部協会二十五周年記念祝典に参加

本、それは人類の英智の結晶である。出版事業の発展は一つの国家、一つの民族の発達と文明の重要な指標であるといえます。日本の出版事業は国際的な評価を得ており、その数多くの素晴らしい経験は、私達が学習の範とするところで。この度私達は貴協会の創立二十五周年記念会に

参加し、参観、見学する良い機会に恵まれました。日本の友人のみなさんが、このような大変素晴らしい学習の機会を提供して下さいましたことを感謝致します。

一 中国出版事業の概況

中国は最も早く製紙法と印刷術を発明した国で、中国の出版事業には長い歴史があり、そのことは、中国人民の思想・文化・科学の成果と労働経験を凝縮した大量の文献を保存し、また伝え広めることを可能にしており、人類の精神的な富の宝庫をいっそう豊かなものにしております。

近代の中国は半植民地半封建的な社会に転落し、経済生産は疲弊し、文化事業は衰退し、出版事情も大変遅れたものになってしまいました。このような状況の中で、中華人民共和国が成立した後、やっと根本的な改革が可能となったのです。社会主義新中国の出版事業は急速に発展し、特にこの一〇年来の変化は非常に大きなものです。私達の党と国家とは出版事業を非常に重視しています。一九八七年一月、国家は正式に新聞出版総署を成立させました。これは國務院に直屬し、省に相当する機関で、全国の報道出版組織の行政的管理についての活動に責任を負っています。各省・市・自治区にも新聞出版局があり、その省や市の報道出版組織の行政的管理についての活動に責任を負っています。党と政府は出版事業の発展のために一貫した措置を取り、すばらしい成績をあげています。

一九八七年末の統計によりますと、全国の出版社は四五社あり、図書印刷所は六二〇所、国営の書籍販売店は九

一〇〇店、報道出版界の就労者数は全国で三十五万人です。一九八七年の出版図書は六万種以上、六二億冊、一九八六年比では増加率はそれぞれが一七・六%と一九・二%です。それは、一九五〇年の六四〇八種類の一〇倍にあたります。定期刊行物は五七〇〇種以上で、総印刷数は二六億八〇〇〇万冊、一九八六年比で一・六%の増加で、一九五〇年の二九五種類の二〇倍にあたります。

全国の四七五社の出版社は三種類に分類できます。

一つは中央一級の出版社で、すなわち、中央の各省や委員会に直属する出版社で、大部分が全国に目を向けた専門的な出版社です。例えば、科学出版社、人民文学出版社、鉄道出版社、体育出版社、人民衛生出版社、石炭出版社、交通出版社、軽工業出版社などで、みなそれぞれ関係のある省や委員会の直接指導に属しています。

二つめは地方出版社で、それは、各省市自治区に所属した出版社です。

三つめが大学出版社で、大学の指導に属する学術性の出版社です。

前述の出版社はみな国営で、あらゆる出版社はみな、国家の承認を受けてはじめて創立することができます。個人が設立した出版社はありません。全ての出版社はみな新聞出版総署の承認した出版範囲に従って、図書を出版します。全国の出版事業は、我が国の経済建設の発展につれ、また、我が国の科学文化教育事業の発展につれて、党と国家の統一した指導と育成のもとで、迅速に発展してきました。そしてよりいっそう強力に、国家の経済建設と科学文

化教育事業の発展に奉仕しており、繁栄に向う活気ある局面を呈しています。

二 中国大学出版社の新しい発展

中国大学出版社の創設と発展とは、中国の大学教育の発展に伴って設立、発展してきたものであり、大学教育事業の発展の必要に應ずるために発生、発展してきたものです。我が国には現在既に普通大学が一〇六三校あり、在学中の学部生は一億九五八七万人、大学院生は一〇万六二〇〇人、成人大学が一三九九校、在校学生数は一八五万五〇〇〇人を数えます。普通大学には八三八種の専門があり、成人大学には一〇〇〇種の専門があり、合計約三万の専課があります。研究生には六三八の専門があり、非常に多くの大学院課程が開設されています。全国にはこんなにも多くの水準のちがう各種の大学があり、教科書、教学参考書さらに學術著作の出版が求められています。既存の出版社の出版能力ではとても応じきれません。高等教育事業の発展は出版事業の相応した発展を必要とし、二つの事業の発展の結合点が大学出版社であり、大学出版社はこうして生まれ、育てられ、急速な発展を遂げたのです。「文化大革命」以前には、大学出版社はわずか二つしかありませんでしたが、現在では既に八一校あり、全国の出版社の六分の一を占め、既に一応の比較的整備された大学出版社体系を形づくっています。一九八七年の時点で、大学出版社には既に専任の職員が三七〇七人おり、その中で、編集関係者が一六六七人、各大学出版社が出版した本は累計で一萬種



講演される麻子英先生

類に達し、そのうち、一九八七年に出版された新刊書は三五〇種になります。多年にわたって出版することのできなかった教材と学術書が出版できるようになり、教職に携わる人々から広範な熱い歓迎を受けています。大学出版社は既に大学の主要な出版基地となっており、我が国の出版界の一つの重要な新戦力であるといえます。

(1) 大学は主要な学術出版基地となる必要がある。

我が国の大学には現在教授、助教授などの高級職の人々が九万人以上おり、三〇〇近くの専門があるため、大量の学術書と教材の出版が必要とされています。大学はまた強力な編集審定能力、豊富な文献資料、広範な学術交流、素早い科学情報などの優れた条件を備えています。大学が出版基地にならなければならない、また、なりうるということ、大学出版社が大学教育と科学研究成果の「窓口」にならなければならない、またなりうるということ、これらのことは実践が証明するところでしょう。

(2) 大学出版社は学術性の非常に高い事業単位であり、教材と学術書の出版を主要な任務としており、社会に対する貢献を最高の活動基準としています。国家は私達各大学出版社が大学の教材と学術書を出版することを求めています。大学出版社の全出版物の七〇％以上を占めるように求めています。出版物の質の高さこそが大学出版社の生命であります。

(3) 大学出版社は生産型から生産経営型への転換を一步実現していかなければなりません。

(4) 営業活動を活発にし、新華書店の力を借りて営業活

動の重要なルートとする必要があり、それと同時に、各種の形式、各種のルートの自主販売を努めて高める必要があります。

(5) 基礎的な整備の強化。それは、組織の整備、印刷能力の整備、及び各種規則制度の整備を包括します。

中国の現在の印刷技術は比較的遅れており、印刷能力は充分ではありません。その反面、大学出版物は、種類が多く、文章は長く、割り付けの難易度は高く、印刷数が少ないという特徴を持っており、期間を短縮し、原価を下げ、印刷能力を高めるために、出版物全体に相当する印刷能力を確立することが必要です。中国の大学出版社は国家教育委員会の統一的な指導のもとで、今まさに、一五の大中型印刷所と六つのレーザー写植印刷センターを含めた印刷体系を建設しています。

(6) 国家と大学が一貫した特別政策を採用している。

① 免税の実施

② 教材と学術書出版経費の補助政策

③ 基本建設投資に大学と主管部門の事業計画を組み込むこと。

④ 出版社の収益を主に出版社自身の発展に用い、欠損の多い出版活動を援助する。

⑤ 教材と学術書の出版以外に、少量のその他の出版物の発行を認める。

三 北京大学出版社

北京大学の前身である京師大学堂の創立は一八九八年で

あり、京師大学堂は、一九〇二年に訳書局と編書所とを正式に設置し、訳書局の実務責任者には嚴復が編集所の総編集長には李希聖が就任しました。その当時、訳書局の編集翻訳した出版物は西洋に関する教材と資料であり、編書所は教科書を出版していました。これが北京大学が出版機関を設立した始まりであり、それはまた、中国に大学出版社が創設された出発点でもあります。一九一二年京師大学堂は、北京大学と改称され、嚴復が改めて学長に就任しました。一九一七年、教育家の蔡元培が学長に就任した後、大行政会議のもとに、出版委員会を設置し、学校書籍の審査と定期刊行物の出版に責任を負うようになり、あわせて講義室を出版部に改める決定を下しました。出版部成立の後、前後して『日刊北京大学』、『月刊北京大学』、『季刊国学』などの少なからず影響力を持った出版物が出版されました。一九二二年、中国社会主义青年団中央が創刊した機関誌『先駆』もまた、北京大学出版部から発行されたものであり、さらに、一部の影響力を持った教科書と学術専門書も出版されました。例えば、梁漱溟著『印度哲学概論』、魯迅著『中国小説史略』、周作人著『欧洲文学史』、李大鈞著『中国国際法論』などがあります。

新中国成立後、一九五二年、全国大学系統の調整が行なわれた際に、北京大学出版部は廃止されました。一九七九年七月、北京大学出版社が新しく設立され、現在に至るまで九年が過ぎています。九年間の発展を経過して、北京大学出版社は、既に、一定の規模に成長しています。現在、一五〇人の職員がおり、編集部、出版部、発行（営業）部、

音響映像部、教材部などがあります。編集部には、文学歴史、政経法、外国語言文学、古籍、生物・化学・地質、数物理学の六つの編集室があります。

現在、編集審査者二〇人、編集者二〇人、助手編集者二〇人。現在までに出版された書物八〇〇余种、印刷図書の総数三五〇万冊、北京大学学報等一四種の定期刊行の學術誌が刊行されており、今年出版の計画がある本は三〇〇種です。

北京大学出版社の出版物は、教材と學術書が八〇%を占め、その中で教材が六〇%前後、學術書が二〇%前後を占めます。著者の九〇%が北京大学の教員で、学外の学者が一〇%前後です。私達は幾年かの努力を通じて、北京大学の特色を反映した比較的水準の高い教科書を出版し、北京大学と全国に向けて優秀な教材を提供し、そのことによつて、大学教育の水準の向上に貢献しようと考えています。

昨年の全国第一次優秀教材選評会で、優秀教材に選ばれたものは二六四種あり、北京大学出版社の一九種が賞を獲得しました。そのうち、国の特等賞の榮譽に輝いたものが一種の、国家級優秀賞が四種、省委員会級賞が一四種で、我が出版社の受賞数は八一大学出版社の頂点に立っています。教材出版が発展し完備され、また、まとまりを持って完成してくるにつれて、出版社の活動の重点は少しずつ學術書の出版に移っていくこととなります。当然のことですが、こうした需要に応えるには多年の努力を必要とします。鄧小平同志は既に、北京大学は教育の中心に、また、科学研究の中心になる必要があり、教育は現代化に、世界

に、そして未来に向う必要があるという考えを示しています。

北京大学は国際社会で比較的高い評価を獲得しています。北京大学の国際学术交流は比較的活発で、昨年、北京大学では三〇回以上の国際的な學術會議が催されました。我が国の開放改革が絶えまなく進展し、また、學術研究が絶えまなく繁榮し、こうした国際間の交流が継続的に拡大発展するにつれて、出版社はこうした趨勢に応じ、不断に国際的な出版協力活動を強化していく必要があります。私達はすでに、貴国の大学出版部及び大学出版部協会との間に、友好的な交流を確立しており、さらに、日本の東方書店などと友好的な圖書業務交流関係を確立しています。私達は、こうした友好協力関係が絶えまなく発展することを希望しています。

四 中国出版工作者協会

中国出版工作者協会は、一九七九年一月二〇日に、湖南省の長沙市で創立されました。この協会は、中国で出版業務に携わる人々が自発的に結びついた大衆的な団体という性格を持っており、その主旨は、党と国家の指導のもとで、全国の出版工作者が団結し、国家の知識人に対する政策と「百花齊放、百家争鳴」方針に従って、我が国の出版事業を努力して発展、繁榮させることにあります。その主要な任務は以下のとおりです。出版工作者を組織してのマルクス主義と党の方針政策の学習、出版業務組織の育成、出版業務研究の発展、出版業務経験の交流、出版工作者の

思想水準と業務水準の不断の向上、模範的な出版工作者の表彰、著訳者との密接な連係、優秀な図書の奨励の組織化、出版事業の発展と繁栄の促進、出版方面の対外文化交流活動の積極的な発展、各国出版界の友好人士との連係と協力の発展、政府関係部門による出版工作者の労働条件と生活条件の改善への助力など。

出版協会にの会員には団体会員と個人会員があり、各水準各種の出版社、印刷所、販売単位は、その単位の申請、ならびに本会の承認を経て、均しく団体会員となることができます。出版管理部門と、書籍雑誌の印刷、営業部門の指導的幹部と業務の中核となる人々、出版社との関係が密接な著訳者、過去長期にわたって出版業務に従事し、影響力のある人士は、本人の属する機関の紹介あるいは本人の申請、そして本会の承認を経て均しく本会の個人会員になることができます。

- ・ 現職の主席 王子野、理事一三八名。
- ・ 協会経費の財源は会費。
- ・ 協会には、教育委員会、育成に責任を負う部門、国際共同出版促進会などの各省市に設置された分会があります。

中国出版協会の創立は一九八七年六月で、国家教育委員会と中国出版工作社協会、双方の指導の下にあります。八一の大学出版社は全て、団体会員であり、会長は人民大学副学長兼人民大学出版社社長の羅国杰教授です。北京地区、華東地区、中南地区、東北地区、西北地区等には地区協会があり、北京地区には二六の大学出版社がありま

す。中国出版協会が最初に友好関係を樹立したのは日本で、第二はアメリカです。八五年には、私達は貴協会の心のこもった招待を受け、日本を訪問致しました。このときの訪問が私達が中国出版協会を成立させるのを促したのです。私は、日本の友人の方々が中国を訪問されることを心から歓迎いたします。そして、私達と両国の同業の友人の方々との友好協力関係が絶えまなく発展できることを希望致します。

五 出版社改革の趨勢

中国の経済体制の改革、科学技術活動体制の改革、政治体制の改革は全て順調に進行しています。全国の各方面で深化している改革の趨勢は、出版社業務にも相應の改革を求めています。数年来、出版社の改革は既に一応の発展を上げています。比較的はつきりとした変化は以下のとおりです。

出版社は階級闘争を大綱とするのをやめ、四つの任務と改革の任務のために努力しています。出版社の大部分は、事業単位から事業単位企業管理に転換してきます。地方出版社の運営方針は、地方化・大衆化・通俗化を改め、足を固めながら、全国に目を向けて、総合出版社から次第に専門出版社に分かれていき、出版社は職業の名称の改革を行い、専門職の審査と招聘を行っています。出版社は経営と自主発行を重視し始め、ちょうど生産型から生産経営型へ変化しつつあります。一部の出版社は、社長責任制、協力出版、自費出版そして請け負い責任制について、実験

と探求を進めています。けれども、出版社の制度上はなお少なからぬ弊害が存在しています。主なものには以下のものがあります。

国家の出版社に対する管理が過剰です。過剰すぎて、出版社にはそれにふさわしい自主権が欠けています。分配の平均主義のために、経営のメカニズムにはそれにふさわしい活力が欠けています。以上のようなわけで、考え方の開放をさらに一歩進め、改革の実行をさらに一歩すすめる必要があります。

私達の改革の根本的な目的は活力に満ちた社会主義出版体制を確立、発展させることであり、さらに多くの良書を出版することであり、それは、物質文明と精神文明の建設という任務のためです。

発展した商品経済の条件のもとの精神文明の建設、出版社には生産型から生産経営型への転換が要求されます。このような転換に因應するためには、さらに一歩進んだ改革が必要です。その改革には、指導体制、経営体制、管理体制、人事体制、分配体制、などの方面の改革が含まれません。

(1) 徐々に社長責任制を推進する。従来の党の指導下で社長と総編集長が仕事と責任を分けあうような方法は、既に当面の業務要求にふさわしくありません。社長責任制に改めていく必要があります。社長が法人を代表し、党は監督と保証の役割を発揮し、社長が全面的に出版社の編集業務と経営管理業務を指導し、国家が規定した出版社にふさわしい人権と財政権とを社長が行使するのです。

(2) 多様な形式の責任制を積極的に推進する。
(3) 労働に応じた分配を堅持し、“親方日の丸”を打破し、給与と報奨金を労働に応じて分配し、奨優罰劣にする必要がある。

(4) 優れた企画を行い、図書の調整を行い、重要な書物を選び、本社の特徴をきわだたせる。悪質な本は出版せず、平凡な本は少なめにし、重版できるような本を選び、競争に際して自分なりの特性を形成する。

(5) 多様なルートを切り開いて、出版能力を高める。協力出版、対外共同出版、自費出版を展開する。代行印刷、代行販売など多角経営を展開する。

(6) 立法作業を積極的に推し進める。国家版權局はちょうど『版權法』と『出版法』の起草作業に取り組んでおり、伝えられるところによれば、既に十数回にわたって書き改められているとのこと。できるだけ早い時期に人民代表大会の常務委員会の審議に付されることを望みます。中国の出版事業はその改革の中でまもなく新しい局面を呈することになります。私達は日本の同じ仕事に携わる方々の素晴らしい経験に学び、世界各国の友人の素晴らしい経験に学ぶことを望んでいます。そして私達の間の友好協力が絶えまなく発展し、共に繁栄できることを願ってやみません。

ご清聴ありがとうございます。

私学会館にて (一九八八年七月一日)

訪中報告

大学出版部協会・訪中代表団

山田 渉

(東海大学出版会)

山下 正

(東京大学出版会)

小野沢 公男

(産業能率大学出版部)

88北京国際図書博覧会は九月一日から一週間、北京展覧館を会場に開催された。今回の図書展は東販・日販・東方書店の三取次会社が「日本事務局」を組織し、日本からは約一二〇名が参加した。われわれは、図書展への参加を中心に、中国大学出版社協会との共同の新しい計画についての相談、各大学出版社との交流等を目的に訪中代表団(山田渉団長・山下正副団長・小野沢公男秘書長)を編成した。

今年の展示会は第一回と比較して「展示会場の総面積は一万二八〇〇平方メートルで前回の六〇%増、36カ国一四三〇社・二九二ブース、総出品点数九万点」と公式発表はスケール及び出展国の増大を強調している。前回の正式なデータが手元にないので正確な比較は困難だが、日本は二

〇五社・五二ブース(前回三三三ブース)と大幅に出品が増大したことだけを付け加えておこう。入場者数は一五万人、中国各省・市の主な科学研究部門、大学、専門学校、情報センター、図書館、大型企業、事業部門等の全国各地から三〇〇〇名以上の専門家・学者・図書購入担当者が外国図書の選定・注文にあたったといわれている。

展示会場においても、相変わらず熱心だったのが合作(共同出版)の希望である。国際著作権条約加盟への準備が必ずしも進展していない状況下だが、中国の出版社からの日本での翻訳出版の「一方的希望」だけが極めて強いのである。持ちこまれた企画は一〇〇を越える。

日中両国大学出版部協会の懸案の共同事業(大学出版物展)についての協議は、一九八九年一〇月を目標に実現をめざすことで基本的に合意し、新しい準備段階を迎えたといえる。この会議に登場したのが、中国教育図書進出口公司である。この公司は国家教育委員会直属の機関で、一九八七年二月に設立され、今年一月から業務を開始している(従業員数七六名)。

公司は、一〇六三の国立大学をはじめ中等・専門学校を含むすべての教育機関への奉仕を任務としている。実際には、従来の中国図書進出口総公司(科学委員会所属)、国際書店(文化部所属)と並ぶ第三勢力として図書の輸出入を担当することになったのである。中国大学出版社協会と教



会場となった北京展覧館

育公司とは極めて密接な関係にあり、今後はわれわれの圖書輸出入の担当になることは間違いない。

今回、訪問し会合を持ったのは人民大学、北京大学、北京师范大学、清華大学の各出版社である。会合は熱心でいずれも三時間に及んだ。これらは中国を代表する大学出版社だが、新中国成立後初めての大学出版社である人民大学出版社を除けば、その歴史は極めて新しく、現在着々とその業務体制が確立しつつあるといえそう。大学教材と学術研究書の刊行を主要な任務としており、一九八七年には新刊三五〇〇点が出版されている。

「出版物の質の高さこそが大学出版社の生命」というだけに、編集体制は充実してレベルが高い。この点については、「中国の大学出版社」(『梓会通信』一四〇号、八八年一〇月)で触れているのでご参照いただきたい。

最後に、紹介しておきたいのは「大学発行センター」のことである。発行センターは大学出版社の新刊圖書の案内を目的に、八七年九月スタートした。毎月『高校連合書目』(『新刊案内』)を発行し、全国の大学・専門学校(約五七〇〇校)へ配布するのである(現在発行部数は七万部)。「各大学出版社では、どんな出版が行なわれているか。また注文する場合に利用できるなど大学教授・学生に人気が高い」と鄭世芳発行センター副主任は語っている。われわれの『新刊速報』(毎月発行)との交換を希望したが、現段階では国内のみで、大学だけでなく、図書館、研究所、企業へと拡大していきたいとのことである。

新華書店(全国一万店)の発行情報だけでは、大学出版社の年間刊行三五〇〇点に関する情報が十分とはいえず、これを補うことが販売促進にも大いにプラスになることを期待しているようである。

フランクフルト・ ブック・フェア

山口 雅己

(東京大学出版会)

沿革と概要

第二次世界大戦後没落したライプチヒにとって替わり、フランクフルトでブック・フェアが開催されるようになってはや四〇年。この間の経緯はトンプソン著／箕輪訳『出版産業の起源と発達——フランクフルト・ブック・フェアの歴史』(一九七四年、出版同人)に詳しいが、紙幅の関係上割愛させていただく。今年はメッセ会場賃賃料値上げ問題が紛糾し、ブック・フェアがケルンに移るのではないかなども取り沙汰されたが、当分はフランクフルトに止まることで解決をみたようである。

第四〇回フランクフルト・ブック・フェアは一九八八年一〇月五日〜一〇日に開催され、当局の発表によると参加

出版社は世界九五カ国から七九六五社、うち五八五九社が東西ドイツ以外からの参加であった。この八〇〇〇になんたとする出版社のうち、五四六六社が単独のスタンドを構え、残り二四九九社が集合スタンドへの出展で、これらすべてが昨年実績を上回っている。世界最大のフランクフルト・ブック・フェアは、なお膨張を続けているのである。

海外からの参加国中最も多かったのがイギリスで八〇〇社(昨年比九%増)、最も大きな伸びをみせたのが日本で、昨年の六〇社から三二%増の七九社となったことが、パブリッシャーズ・ウィークリー誌九月九日号でも報じられた。ただし、この増加の大部分が、今回初めて正式に参加した大学出版部協会加盟出版部の寄与するところであったことまでは、調査が行き届かなかったようである。

メッセ・ゲレンデには、長方形の広場の三方を取り囲むようにして第三、第六および「コンGRES」の五つのホールが建っており、空中回廊で連絡している。この限られた展示会場(面積一一万三千平米)に、増加し続ける参加出版社を収容するのだから、スペース不足が慢性化するのも当然である。各出版社は「美術」、「児童書・宗教書・地図」、「自然科学」の専門によるグループ分け、あるいは国によるグループ分けにより各ホールに配置されたが、メッセ期間中の混雑は相変わらずのものがあつた。



大学出版部協会／東京大学出版会ブース

コンGRES・ホールでは特別テーマに沿った展示が開かれており、ブラック・アフリカ、インドに続く本年のテーマ国はイタリアであった。会場での展示・文学作品の朗読などの催しだけでなく、市内でのオペラその他さまざまな催事を含め、数億円規模のイベントであったらしい。来年はフランス、そして一九九〇年のテーマ国は日本となることが正式に決定されており、大学出版部協会に対しても、近々なんらかの協力要請があるろう。いずれにせよ、「日本」年がどのようなものになるか、楽しみではある。

トレード・フェア

フラン克福ルト・ブック・フェアは、書籍の展示即売を目的とするものではなく、国際共同出版や版權の売買などを促進する「トレード・フェア」として位置づけられている。そのため、今年から、六日の期間中最初の二日と最後の一日はトレード・デジタル以外の入場が制限されている。それでも今年の入場者は、昨年より九〇〇〇人増え、二〇万人を越えたという。

初めてフラン克福ルト・ブック・フェアを訪れた人は、まずその規模の大きさに面喰らうだろう。大小さまざまな〇〇近くのスタンドに一〇万点を越す新刊書が溢れているし、最近ではビデオやCDを使ったAV出版も花盛りである。出版社によってはスタンドの設営に意匠を凝らし、場所と

デザインがすっかり定着している。時として見慣れたロゴが消え失せ、あるいは別の出版社のワン・ノブ・ゼムとなってしまうといったりすると、国際出版業界に吹き荒れるM&A（吸収合併）の嵐を肌で感じるのである。各国のスタンドを見れば、その国が出版にどのくらいの手を置いているか、即ち文化水準が推し量れる。人々はフェア初日からアポイントメント取りに忙しく、あるいはここぞと思う出版社に飛び込んでいて企画を売り込み、翻訳権のオプションをとりつける。版權担当者など、初日から最終日まで、朝九時から夕方六時までスケジュールがびっしり詰まっていることはザラだし、毎晩のように開かれるパーティーも仕事の場、二つ三つとハシゴして情報交換に励むのである。

協会の国際化に向けて

大学出版部協会／東大出版会のスタンドは、第六ホール三階通路Fの端に位置し、間口六米・奥行二米のスペースの右側を協会用、左側を東大出版会英文図書用とした。協会コーナーには参加一四校の出版物（和文図書三〇点、英文図書一八点、独文・仏文図書各一点）ならびに総合カタログ、協会ディレクターなどを展示、来訪者に配布した。

本来第六ホールは自然科学関係の展示会場のだが、東大出版会の日本関係英文図書がかなり知られているせい

か、毎年多くの日本研究者がスタンドを訪れ、展示図書を目を通し、カタログを持ち帰る。昨年同様今年も初日から、地元西ドイツの新聞社フランクフルター・アルゲマイネのミュラー博士、ハイデルベルク大学シャモニ教授、マールブルク大学パウア教授を迎えるなど、協会展示コーナーは連日のにぎわいを見せた。海外の日本研究者の最大の悩みは、和文図書（特に新刊書）に関する情報量の絶対的な乏しさであるが、その意味で「大学出版部協会総合書目録」は非常に重宝がられていた。

昨年の非公式参加を踏まえ、今年もフランクフルト・ブック・フェアに参加した大学出版部協会であるが、その主たる目的——協会の「国際化」——は徐々に実現されつつあると思う。英文出版をするとか、翻訳権を売り込むことも重要だが、それだけが「国際化」の道ではなく、和文図書を海外に売り込む（求められている情報を、定期的に、効率良く流す）ことも「国際化」の一環といえよう。

惜しむらくは、今年は東大以外からスタッフの派遣がななく、「東海の人に会いたい」とか「法政からだれか来ていないか」と訪ねてきた人々を満足させられなかったことである。出版人として一度は見ておきたいフランクフルト・ブック・フェア——来年は是非各出版部からもスタッフを派遣していただきたいものである。

大学出版部協会 創立二十五周年記念と感謝の会

高野 昭吉

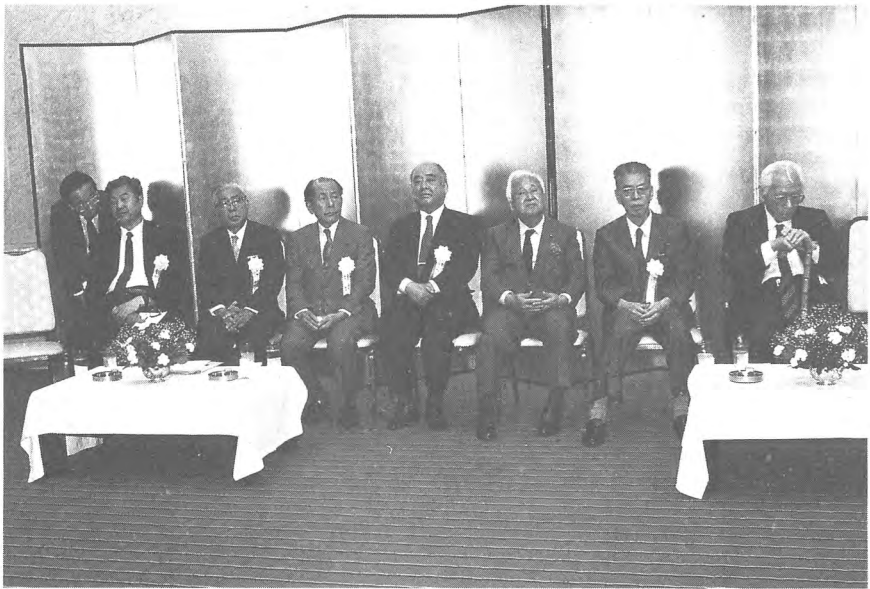
(東京電機大学出版局局長
大学出版部協会総務担当幹事)

大学出版部協会は、大学出版部相互の連絡をはかり、大学出版部運動を発展させることにより学術文化の向上に資することを目的として、一九六三年六月に結成され、今年で創立二十五周年を迎えた。これを記念し、アルカディア市ヶ谷(私学会館)「富士の間」に於て、六月三〇日夕刻より「記念と感謝の会」を催した。

当日配布の来賓芳名簿には、中島源太郎文部大臣を筆頭に、外務省、フランス、中国、韓国等の高官や、国際交流基金、民間の各出版助成財団、国公私立の大学団体、図書館団体、出版業界諸団体をはじめ、書籍製作協力会社、業界マスコミ紙、協会加盟大学役職者等合わせて二七三名が



「25周年記念と感謝の会」で挨拶する石井幹事長



来賓の皆様

記載されていた。

会場内は、文部大臣並びに日本生命財団等から贈られた数基の生花が色どりを添え、前記招待客と我々出席協会員を含めて約三五〇名が一堂に会し、棟尾裕幹事（中央大学出版部）の司会で祝宴の幕は賑々しく切って落とされた。

会次第は、冒頭、大学出版部協会石井和夫幹事長（現、常任顧問）の挨拶に始まり、各界代表の来賓祝辞と続いた。祝辞は文部大臣（代読）を皮切りに、国公私立大学を代表して森 亘 国立大学協会会長、全国の図書館を代表して永井道雄日本図書館協会会長、図書流通業界を代表して五十嵐一弘日本出版取次協会会長の順に、それぞれの立場からの辞となった。

次に、当日列席の協会加盟大学の総長、学長からの謝意という事で、松前重義東海大学総長、中野道夫東京電機大学学長、石丸圀雄東京農業大学短期大学学長の三名が次々と壇上に紹介され、挨拶した。

思えば、二十五年前、白金迎賓館で開かれた協会設立記念パーティに於て、茅誠司東京大学総長、大浜信泉早稲田大学総長、丹羽保次郎東京電機大学学長、谷川徹三法政大学総長から祝辞を頂いた当時を彷彿させ、我々ホスト役一同は四分の一世紀を祝うに相応しく最も有意義であったと自画自賛した訳である。

引続いて松信泰輔日本書店商業組合連合会会長の乾杯音頭で歓談に移った。

宴半ばで、我々と同じ仲間である隣国の中国大学出版社協会を代表して、麻子英北京大学出版社社長、協会が出版助成面で格別のお世話になっている日本生命財団の望月信彰専務理事、我々の本作りに日頃から協力頂いている業者を代表して牧製本・印刷(株)牧祥平社長の各氏からそれぞれスピーチを頂き、続いて祝電の披露に移った。当日の祝電を頂いた方々は次のとおりである。

(社)日本書籍出版協会理事長 服部敏幸

日本私立短期大学協会会長 小尾庸雄

日本私立短期大学協会事務局長 鈴木武夫

東京出版販売(株)社長 遠藤健一 他役員一同

(株)大阪屋社長 松本 最^{マサカミ} 他役員一同

栗田出版販売(株)社長 三浦兆志^{ヨシヒサキ}

宴も終りに近づいた頃、中平千三郎協会常任顧問から閉会の挨拶があり、近い未来に於ける大学出版部協会の益々の発展を心に期しつつ、盛況裡に会を閉じた。

■二十五周年記念事業の数々

二十五周年記念事業は、この「創立二十五周年記念と感謝の会」ならびに「大学出版部協会二十五年の歩み」の発行のほか、今後、一九八九年に向け次のイベント展開を予定しております。

〈記念講演会〉第一回を札幌、第二回を東京、第三回を九州、第四回を名古屋、第五回を京都で実施いたします。

〈記念ブックフェア〉全十六大学出版部の母体大学構内に於て、生協等の協力のもと、「大学出版部協会総合図書目録」(創立二十五周年記念)を用意し、同時に展示即売を行います。

〈日本の大学出版物展〉日本全国の大学に拠出を呼びかけ、紀要類を含めた最近の主な出版物を集め、東京地区、関西地区の二箇所で開催する予定です。

その後、これらの出版物を、中国の北京を含めた二箇所にて展示会を行う予定で関係各所と協議中です。今後共、協会の大学出版部運動の現状をご認識いただき、ますますのご支援、ご鞭撻を心からお願ひ申しあげます。

北海道大学図書刊行会

■万葉人にとって美人の理想像は、ハチのように細くくびれたウエストだったらしい。このハチのくびれこそは「刺す」ことに深いかわりがあり、腰のくびれたグループだけがもつ特権なのだそうだ。松浦誠氏の『スズメバチはなぜ刺すか』（定価二五〇〇円）が順調な出足をみせている■実はこの書が発行さ

大学出版部ニュース

産業能率大学出版部

韓国・建国大学教授朴承薫の『南男北女』——韓国人の常識・日本人の常識が、ソウル・オリンピックックという追い風もあって好評だ。著者の朴先生は、日韓大学出版部協会交流の場で講演をしたこともある、大学出版部協会にはなじみの先生だ。週刊文春で黒田勝弘氏が、この本を一頁かけて書評して下さい

れたのは、北海道でハチのシーズンがそろそろ終わろうという九月半ば過ぎ。来年に期待しつつも、いささか諦めきれない思いを懐いていたやさき、事故発生。札幌近郊でオリエンテーリング中の小学生二十数人がケブカズメバチに刺されるという事件が起きたのだ。しばらくの間、卓上の電話が鳴り続けていたのは言うまでもない。もちろん、スズメバチと示し合わせていたわけではない。

ったのも、大変ありがたかった。国際化の進展に伴って、外国人が日本国内にも増えてきた。そこでまず問題になるのは、言葉の問題だが、本学短大の日本語教育研究室がまとめた『講義を聞く技術』は、日本にいる外国人留学生のためにまとめられた、日本語の講義を聞くためのハウツー書だ。読者が本に直接書き込める方式になっており、カセット・テープの教材も用意されている。

慶應通信

■日本倫理学会論集23「倫理学とは何か（定価二八〇〇円）」は、アリストテレス、さらにはホッブス、カントの倫理学を中心に、（都市）国家・個人・倫理などの関係について再検討し、最後に現代のロールズ、ハーバーマスの正義論を考察する。

■世界各国の未開宗教や民族宗教の儀礼を通して、非西洋的な

玉川大学出版部

人文科学の書物の売れ行きが低迷しているといわれて久しい。こんな出版界の潮流の中で、あえて私ども玉川大学出版部では人文書の中でも超重量級である美学・芸術書を三点復刊することに踏み切った。美学史上初めて近代論文といわれ、美と善の自律性の理論を構築したハチスンの『美と徳の観念の起

宇宙観・社会構造に光をあてたものとして、吉田・宮家編著「コスモスと社会——宗教人類学の諸相（定価三九〇〇円）」がある。■日本人の身近な問題である高齢化に伴う老後生活の不安や国際経済関係の複雑化の中で、21世紀の国民の生活設計から、年金・保険の活用方法まで、あらゆる年齢層へ向けての〈新時代の生き方〉を提案するものとして、庭田範秋著「賢く生きる」（定価一九〇〇円）がある。

原（山田英彦訳、四二〇〇円）、西洋美術史の深層を探り、現代美術の運命を解明しようとするガントナーの『心のイメージ——美術における未完成の問題』（中村二柄訳、三八〇〇円）、モダン・アートへの歴史的アプローチをユニークな哲学的解釈で試みるハリイズの『現代芸術への思索』（成川武夫訳、三二〇〇円）である。ハードな書物ではあるが良質の読者に支持されてこそその出版と確信している。

中央大学出版部

阪口修平著『プロイセン絶対王政の研究』(定価三二〇〇円)

十八世紀以前の近代社会において、国家と社会、公法と私法は未分離であり、個人は地域的、職能的な共同体に組織され、この共同体が種々の権利の主体であった。それは単に私法上の権利のみならず、裁判権、警察権をも包括していたとみる

大学出版部ニュース

東京大学出版会

「マスコミ考古学とデータ考古学の間をつなぐ市民の考古学」をテーマに、『UP考古学選書』全13巻(各一八〇〇円)の刊行が始まった。長屋親、王木簡、藤ノ木古墳など、新聞紙上等で大発見扱いされる遺物・遺跡に関心が集まるのは当然としても、その一方で、開発の美名のもと日々破壊されていく無数の遺跡

見解が打ち出されてきた。

かかる研究の潮流のなかにあって、幅広い史料研究を深化させ、国政史と社会史の接点から官僚制と身分制、軍隊と社会の関係等、従来未開拓の領域に鋭く切り込み、新たな視座から国家と社会、中央と地方を統一的に把握しようと試みた本書は、著者十五年余のプロイセン絶対主義研究の成果であり、古典的な絶対主義像を社会構造の視角から追究した意欲作である。

東海大学出版会

●この夏、新聞・テレビでも紹介されて話題をさらったのが、『日本産トンボ幼虫・成虫検索図説』羽の形や体型から名前が簡単にひける日本初の絵とき検索図鑑で日本のトンボのすべて202種がカラー生写真等で収録されています。●プロカメラマンが撮影テクニックの坎どころを明かす「フィールドフォ

東京電機大学出版局

〈書評抄録〉『ニューラルコンピュータ脳と神経に学ぶ』合原一幸著/定価二四〇〇円
一人の電子工学屋が見た「ニューラルコンピュータ」研究への期待論といえる。まず脳研究とコンピュータ研究の歴史的關係から始まり、ニューラルコンピュータ研究のための基礎知識として、実際の生体の神経や脳

の情報処理の基本事項およびこれらの情報処理機構の原理を抽出するための脳の理論モデル研究について概説している。

また、すでに始まっているニューラルコンピュータ研究の現状をふまえ、今後の未来像、さらには将来へ向けてカオスニューラルネットワークおよび免疫ネットワークについて論じている。『日刊工業新聞』評

本書は、非常にユニークさと新鮮さを感じる。『科学新聞』評

東京農業大学出版会

大学出版会の使命は、教育研究の社会に果たす役割を助長し、その啓蒙活動の一端を担っていることは言うまでもない。

本学は農学を中心とした大学であり、現社会における主な課題として、農業経営・食と健康・生活と環境・生命工学の分野があげられる。現在図書館と連携のもと学術映画の製作を行っ

ているが、その主なものは、

家畜と血液型17分・ナイトソールⅡ尿管処理の科学20分・花の色20分・緑化工Ⅱ草による国土の保全25分・環境計画の科学Ⅱこれからの造園学19分・水と農業Ⅱ河川における施設形態20分・日本の醸造とこうじ21分・用と景Ⅱ現代造園の視点21分・日本の稲作慣行「田植えの方法」19分・「稲の乾燥方法」24分などであり、すでにビデオ化しその関係者に提供している。

東京理科大学出版会

月刊誌「SUT」は、理科大の英文名の頭文字で、B5判、六〇数頁のもので、各家庭で簡単に科学の知識を得られるよう毎月一定のトピックスを組んでいます。

大学の総力を挙げていますので、話題に困ることはありません。その他、物理・科学の実験及び数学・科学英語のセミナー

欄を設けて勉学指導の便を図っています。

○最近の既特集号
色彩心理と生活
レーザーで何ができるか
老化と寿命の化学
マンガン団塊Ⅰ新金属鉱物資源
乗り物
スーパーコンピュータ
国際化時代の理工系大学教育
あいまいさの科学
(定価四三〇円 年間購読会
員五〇〇〇円)

大学出版部 ニュース

法政大学出版局

『旅の石工——丹波佐吉の生涯』
金森敦子 著／定価二二〇〇円
●作者は佐吉の技巧によりは、石の生命そのものの力に魅せられた。そうして、おおむね石そのものに語らせて、自らはつつましく脇役にまわりながら、石にひそむ魔性と観音力を開眼させた。……………『朝日新聞』評

的な石工をたどるばかりではなく、その底辺にいる多くの名もなき石工たちに光をあて、同時に飢餓や天災に苦しむ農民たちの動きをかさねていることであろう。……………『読売新聞』評

●ほんのわずかなことしか知られていない。著者は、そのかすかな痕跡をなめるように踏査しつつ、実像をおいもとめる。その作業はスリリングで、…読むものはたとえページをめくる手をとめもする。『毎日新聞』評

明星大学出版部

奥田昭夫著『情報と教育』コンピュータ発明は、今世紀最大の発明であるときよくいわれる。社会の多くのものが飛躍的に発達してきた一方で、教育は今なお基本的にはあいも変わらずの状態により行われている。その教育が今大きく変わろうとしている。しかし、その原動力となるべき現場の教員の意識は、あま

りに急激な変化を求められているが故に、未だしといったところである。

ともあれ、これからの教育を語るとき、コンピュータを抜きにしては教育は出来ないことだけは事実である。本書は、主として文化系の、コンピュータを初めて学ぶ学生と、教育の第一線で活躍している教員を対象にコンピュータ概論の入門編として書かれたものである。(A5判 一三〇〇円)

早稲田大学出版部

▼「アビントンの焼きもち女房たち」女番長またの名女怪盗モル「オールド・フォーチュネイタス」——とくだけた書名が並ぶ、大井邦雄監修『エリザベス朝喜劇10選』全一〇巻。次回配本「お婆ちゃんの冬物語」とつづく。三か月に一冊配本。

▼当初に予定していた全一二巻が一〇月に完結した、中野幸一

大学出版部ニュース

関西大学出版部

最近、本学文学部丹治昭義教授の仏教書二冊を刊行した。

『中論釈 明らかなことば』と『沈黙と教説 中観思想研究1』である。前者は龍樹の中論第一章に対する月称の注釈の和訳に精密詳細な注解を加え、後者は中論第十八章では空の実在として成立することを追求している。両書とも空の思想を論理

編『奈良絵本絵巻集』。斯界の要望を受けて、一二月から続巻として「本朝孝子伝」武家繁昌他「花鳥風月他」の三巻を毎月一冊ずつ配本する。

▼三月から刊行を始めた『早稲田大学蔵資料影印叢書 図書編』第二期、全一六巻。第一期になかった分野の「宗祇連歌集」「能楽資料集」が加わるほか、五巻からなる注目の馬琴自筆の「馬琴評答集」が登場する。配本は三か月に一冊。

的に解明した労作である。

昨今、釈迦仏教の法統がわが国では殆ど形骸化しているなかであって、大乘仏教の根本思想を研究対象にした両書にどの程度の需要があるか関心事であったが、予想外の良好な売れ行きである。近代経済が発展し物質が豊富になっても、人が心の糧を宗教に求める傾向は、昔も今も変わらない。仏教書ブームの所以であろう。

名古屋大学出版会

▼訳者代表・國本哲男、山口巖、中条直樹『ロシア原初年代記』（一〇〇〇〇円）の第二十四回日本翻訳出版文化賞が決定した。小会としては『ターヘル・アナトミアと解体新書』に次いで二回の受賞となった。

▼野田宣雄『教養市民層からナチズムへ—比較宗敎社会史のこころみ—』「なぜカントとゲー

テの国でヒトラーが？」という疑問に、宗敎社会学の立場から切り込んだ大部の学術書だが、戦後の日本でマルクス主義の強い影響によるナチズムの社会経済的分析に慣らされた人々にとって、目からウロコが落ちる感じがするだろう。（中略）著者自身による実地調査を加えての堂々たる論述には充分な説得力がある。

（昭和六十三年十月十日付「朝日新聞」読書欄より）

九州大学出版会

▼「東京一極集中」といわれるなかで、九州経済がかつてもった輝やかしい先駆的な実績をふりかえり、明日の展望を構築する。小島恒久編『九州における近代産業の発展』。「自然は飛躍しない」「社会も文化も飛躍しない」。九州の自然的・地理的条件から社会・文化までを考えた。九州大学公開講座20「九州

—その過去・現在・未来—。民俗は特殊性、孤立性のものではなく、流布し伝播する。文化史学に関する正当な学識を以て踏みこんだ論集。市場直次郎『西日本民俗文化考説』▼日米を代表する老年学者によって書かれた高齢者に関する比較文化の書であり、まさに「ジャパン・アズ・ナンバークォーター」の「老人版」。E・バルモア、前田大作著／片多順訳『お年寄り—比較文化からみた日本の老人—』

《書評》 石井和夫著 『大学出版の日々』

学生と読書

井尻 千男

(日本経済新聞社編集委員)

東大出版会の創立メンバーの一人で、長いあいだ専務理事をつとめてこの六月に定年退職した石井和夫氏が『大学出版の日々』という本を出した。

「編集者は語らず、ただ書かせるのみ」と教えられ、ひたすらそうつとめてきた氏ではあったが、同出版会がPR誌「UP」を発刊したときから、その巻末の小さなコラムを執筆することになった。「それが、いつか十五年九カ月たち、百八十九回を数えるところで、退職の日を迎えるにいたった」。それを中心にまとめたのが本書である。最初の日付は一九七二年十一月。

七〇年代に知の構造変化が急速に進んだ、という説は今や定説になっている。いったいなにが起こったのか。

「昨年十一月に発表された東大の学生生活実態調査によると、よく読んでいる定期刊行物で『少年マガジン』が群をぬいてトップ、生協書籍部には漫画コーナーが特設され

ているというから、事実にはちがいなかろう」(一九七六年一月)

同じ文章で、一年前の調査に比べて、「本代だけが半減したというのにはなぜか」と嘆いている。「朝飯を食べよう、本を読もう」というスローガンを大学生協が掲げたのは七八年。ユーモラスといえばユーモラスだが、このスローガンは、どう考えたって小中学生向きである。精神的な成長のストップした「大人子供」が大挙して大学生になった、ということだろう。

そういう学生を相手に、良書を刊行し続けねばならないところに、石井氏をはじめとする大学出版関係者の苦闘がある。八三年一月のコラムには「最近の生活調査でも、一年生の四人に一人は読書時間ゼロ、残りの半分は三十分以下で、一向に改善の兆はみられない」とある。もう完全に底をついた感じだ。「読まない・書けない・考えない」学生像の完成である。恐ろしい時代になったものだ。

希望につながる一行を期待して読み進むと最後のところにわずかな光があった。八〇年代前半に教養講座と銘打って『無限と有限』『時間と人間』『偶然と必然』などを出したら、これが割りと順調だった。ところが「次の『現代社会とエネルギー』は見向きもされない惨敗」だった。

そこで一つの仮説。「学生たちは学問の現実主義に魅力を感じないのかもしれない。昔の学生だって観念論に酔ったのである」。

(東京大学出版会・二四〇頁・定価二〇〇〇円)
(日本経済新聞「昭和63年7月31日付より転載」)

新刊案内 '88・4〜9

(表示価格は定価です)

北海道大学図書刊行会

花風景 北海道

梅沢 俊 一八〇〇円

知床の動物―原生的自然環境下の脊椎動物群集とその保護―

大森司紀之・中川元編著 八八〇〇円

The Fundamental Problems of Interface Structure and Electrochemical Kinetics

日ノ電気化学会 三五〇〇円

覆刻 北海道薬用植物図彙

工藤祐舜・須崎忠助 三〇〇〇円

有珠山―その変動と災害―

門村・岡田・新谷編著 八八〇〇円

研究過程論

田中 一 一五〇〇円

スズメバチはなぜ刺すか

松浦 誠 二五〇〇円

北海道経済の地平をさぐる

北海道大学放送教育委員会編 一六〇〇円

豊かな人間性の創造―開かれた教育のために―

北海道大学放送教育委員会編 一八〇〇円

■慶應通信

憲法と民事手続法へ慶應義塾大学法学研究会叢書

四五〇〇円

K・ハインツ・シュワープ他三名／石川・出口編訳

一六〇〇円

不適応の精神分析―心の健康を育てる―

前田 重治 一六〇〇円

国交再開・政府承認へ日本の国際法事例研究(2)

国際法事例研究会 三五〇〇円

病気のこどもの理解と援助―全人的な発達をめざして―

山本昌邦編 一五〇〇円

賢く生きる―高齢化と国際化に備えて―

庭田 範秋 一九〇〇円

正論自由 第六巻―対立共存の時代―

中村 勝範 一七〇〇円

コスモスと社会―宗教人類学の諸相

吉田・宮家編 三九〇〇円

訪問教育の指導の実際

文部省 一〇〇〇円

アメリカン・フロンティア

ウォルシュ／折原卓実訳 二五〇〇円

近代ドイツ政治思想研究

多田 真鋤 四八〇〇円

■産業能率大学出版部

知らず知らずに成功する

草薙 太郎 一二〇〇円

最新・ビジネス秘書読本

産能短大秘書研究室 一五〇〇円

増補版・イメージ・コントロール法

保坂榮之介 一六〇〇円

管理力強化戦略

小林 末男 一八〇〇円

いきいきグループ運営術

清水 省三 一三〇〇円

OJTと職場経営

大貫 章 二〇〇〇円

愚者の「さとり」

田里 亦無 一五〇〇円

壁を越える企画力

広野 穰 一三〇〇円

南男北女

朴 承薫 一五〇〇円

こうすればラクに3倍売れる

坂本 亮一 一二〇〇円

セールス・プレゼンテーションの上手なやり方・進め方

高橋俊夫／稲垣行一郎 一三〇〇円

デザイン法則事典 第3巻

山田 理英 二二〇〇円

売上げアップ・利益倍増の「仕掛け」づくり

内藤 和美 一五〇〇円

アメリカのテレマーケティング

正木 嗣彦 一八〇〇円

販売最適企業

中井 久史 一五〇〇円

流通VANの戦略

玉生 弘昌 一八〇〇円

■玉川大学出版部

詩の朗読指導―中学校・国語授業の実践

菅 吉信 二四〇〇円

一般教育学 W・フリットナー／島田四郎・石川道夫訳
大学教育とは何か 喜多村和之編 二四〇〇円
教育学の解釈学入門―精神科学的教育学の方法― 三五〇〇円

法学はいかにして創られたか―コペルニクスからニュートンへ―
H・ダンナー／浜口順子訳 二四〇〇円

日本の大学教育改革―歴史・現状・展望― 吉仲 正和 一八〇〇円
中央大学出版部 関 正夫 四八〇〇円
法律家を目指す諸君へ〔昭和63年度版〕

論理学 中央大学法職講座運営委員会編 一〇〇〇円
所 雄章 一五〇〇円

夢・狂気・神話―想像力の根としての― 小山田義文 二〇〇〇円
統計原論〔改訂版〕 栗原 源太 二二〇〇円

日独会社法の展開 M・ルッター／木内宣彦編著 二五〇〇円
西独訴訟制度の課題 P・ギレス／小島武司編訳 四二〇〇円

出生力の経済学 大淵 寛 二四〇〇円
低開発資本主義論―価値法則―一般化―

R・サウ／一井昭・長谷川幸生訳 三〇〇〇円
プロイセン絶対王政の研究 阪口 修平 三二〇〇円

■東海大学出版会 L・ロバッシュ 二七〇〇円
グラフの不変数〈組合せ論演習③〉

集合論的グラフ理論〈組合せ論演習④〉 L・ロバッシュ 二五〇〇円
インド学〈足利惇氏著作集②〉 岩本・小林・渡瀬編 一一〇〇〇円

文化のインターフェイス〈記号学研究⑦〉

北欧の言語 新版 日本記号学会編 二五〇〇円
イギリスの現代小説― エリアス・ヴェゼン 三五〇〇円

バイオエニックスの基礎 内多 毅編 二二〇〇円
日本産トンボ幼虫・成虫検査図説 加藤・飯田編 三二〇〇円

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊 一三〇〇円
技術摩擦 松前 仰 一五〇〇円
半導体工学の基礎 小野 員正 二二〇〇円

水中写真マニュアルへフィールドフォトテクニク①
小林 安雅 一五〇〇円
コンスタンティノープルを歩く 尚樹啓太郎 二八〇〇円

テクストの記号論〈記号学研究⑧〉 日本記号学会編 二七〇〇円
地球熱学 早川 正巳 六〇〇〇円

愛の伝説―中世北欧の信仰と愛― 武田龍夫編訳 一八〇〇円
病因論の諸問題―病気を決定するもの― 小林 忠義 二〇〇〇円

あまからびん 小高 熹郎 一五〇〇円

■東京大学出版会 富永 健一 一四〇〇円
日本産業社会の転機〈UP選書〉 天野 郁夫 一四〇〇円

大学―試練の時代―〈UP選書〉 青木保・黒田悦子編 二六〇〇円
儀礼―文化と形式的行動― 永原慶二・佐々木潤之介編 五四〇〇円

日本中世史研究の軌跡 猪口 孝 一八〇〇円
国家と社会〈現代政治学叢書1〉 奥平 康弘 四二〇〇円

なぜ「表現の自由」か 利谷・江守・稻本編 五二〇〇円
離婚の法社会学―欧米と日本― 平野健一郎・山影進ほか 三五〇〇円

アジアにおける国民統合 衆議院事務局編 九〇〇〇円
衆議院委員会議録33 衆議院事務局編 九〇〇〇円

衆議院委員会議録34 衆議院事務局編 九〇〇〇円
Static and Dynamic Behavior of Kurobe Dam 岡本・田村ほか編 一八〇〇円

The Himalayan Plants, Vol. 1 大場ほか編 二八〇〇円
Electrum 鹿園・清水 五五〇〇円

進化〈東京大学公開講座47〉 森 亘 一八〇〇円
虚学から実学へ 金 泰 俊 五八〇〇円

藩閥支配、政党政治〈日本政治史2〉 升味準之輔 一九〇〇円

| | | | | | |
|----------------------|-----------------|-------|--|---------------|--------|
| 企業会計―利益の測定と開示― | 斎藤 静樹 | 二八〇〇円 | 政党の凋落、総力戦体制(日本政治史3) | 升味準之輔 | 一九〇〇円 |
| 産業政策の経営分析 | 伊藤元重・奥野 正寛 | 四〇〇〇円 | 刑法総論講義 | 前田 雅英 | 三二〇〇円 |
| 中世京都の町屋 | 野口 徹 | 三八〇〇円 | 転換期の福祉国家〔下〕 | 東京大学社会科学研究所編 | 四八〇〇円 |
| 足尾暴動の史的分析―鉱山労働者の社会史― | | | 現代経済学研究 | 鬼塚雄丞・岩井克人編 | 五四〇〇円 |
| 細胞進化論 | 二村 一夫 | 五四〇〇円 | 情報化時代の産業体制 | 巽 信晴・西田 稔編 | 三四〇〇円 |
| レーザラマン分光法による半導体の評価 | 佐藤 七郎 | 九〇〇〇円 | 選挙報道と投票行動 | 東京大学新聞研究所編 | 六五〇〇円 |
| 工学的最適制御―非線形へのアプローチ | 河東田 隆 | 四八〇〇円 | 生命の誕生と進化 | 東京大学新聞研究所編 | 二四〇〇円 |
| 衆議院委員会議録35 | 加藤寛一郎 | 四〇〇〇円 | 日本荘園絵図聚影 第三卷 | 近畿二 | |
| 衆議院委員会議録36 | 衆議院事務局編 | 九〇〇〇円 | 大日本史料 第一編之二四 | 東京大学史料編纂所編 | 五〇〇〇円 |
| 冬ごもり | 衆議院事務局編 | 九〇〇〇円 | 大日本史料 第十編之十九 | 東京大学史料編纂所編纂 | 七四〇〇円 |
| 意味と情報(シリーズ・人間と文化2) | 大内 力 | 二八〇〇円 | 大日本史料 第十編之五十一 | 東京大学史料編纂所編纂 | 六四〇〇円 |
| 決定を支援する(認知科学選書18) | 竹内 啓 | 一八〇〇円 | 大日本近世史料 市中取締類集十八 | 東京大学史料編纂所 | 七六〇〇円 |
| 近江国境村玉家永代帳(史料館叢書) | 小橋 康章 | 一八〇〇円 | 大日本近世史料 細川家史料十一 | 東京大学史料編纂所 | 六六〇〇円 |
| 近代日本法制史料集 第十 | ポアンナード答議三モッセ答議 | 九八〇〇円 | 大日本近世史料 幕府書物方日記十八 | 東京大学史料編纂所 | 六〇〇〇円 |
| アメリカ革命 | 有賀 貞 | 五〇〇〇円 | 衆議院委員会議録39 | 衆議院事務局編 | 七八〇〇円 |
| 日本資本主義の発達と私法 | 福島 正夫 | 四八〇〇円 | 衆議院委員会議録40 | 衆議院事務局編 | 九〇〇〇円 |
| 日本森林行政史の研究―環境保全の源流― | | 五〇〇〇円 | Educational Thought and Ideology in Modern Japan | 堀尾/Palzer | 七五〇〇円 |
| 教師のライフコース | 稲垣忠彦・寺崎昌男・松平信久編 | 六二〇〇円 | 現代アメリカの出現 | 本間長世編 | 三八〇〇円 |
| バイオメカニズム9 | バイオメカニズム学会 | 二六〇〇円 | 自由のためのテクノロジ | ブル/堀部政男監訳 | 四五〇〇円 |
| 単独者と普遍 | マドローヌ・キム/酒井一郎訳 | 一八〇〇円 | 社会統計入門〔第2版〕 | 津村善郎・洵脇学・築林昭明 | 二六〇〇円 |
| 減数分裂と遺伝子組換え | 堀田 康雄 | 二八〇〇円 | 天体力学講義 | 堀 源一郎 | 三八〇〇円 |
| 衆議院委員会議録37 | 衆議院事務局編 | 九〇〇〇円 | 正倉院文書目録 二 続修 | 東京大学史料編纂所編 | 一三〇〇〇円 |
| 衆議院委員会議録38 | 衆議院事務局編 | 九〇〇〇円 | 日本関係海外史料目録15(新収1) | 東京大学史料編纂所編 | 五四〇〇円 |
| 大学出版の日々 | 石井 和夫 | 二〇〇〇円 | イギリス・アメリカ・オーストリア・デンマーク | | 五四〇〇円 |
| 日本近代史講義 | 島海 靖 | 二八〇〇円 | | | |
| 政党(現代政治学叢書13) | 岡沢 憲美 | 一八〇〇円 | | | |

衆議院委員会議録41 衆議院事務局編 九〇〇〇円
衆議院委員会議録42 衆議院事務局編 九〇〇〇円

モイラ言語―アリストテレスを越えて― 井上 忠 三二〇〇円
立法過程〔現代政治学叢書12〕 岩井 奉信 一八〇〇円

デモクラシーと抵抗権 堀 豊彦 五八〇〇円
近代日本労資関係史の研究 西成田 豊 六八〇〇円

モスクワ―世界の大都市5― 中村 泰三 三〇〇〇円
多様体の基礎 松本 幸夫 三二〇〇円

Pascal 入門―TURBO Pascal 演習― 長野三郎・長島忍 一五〇〇円
遺伝子科学へUPバイオロジー71 石川 辰夫 一六〇〇円

生命体に学ぶ材料工学〔材料テクノロジ―24〕 堂山昌男・山本良一編 三〇〇〇円
明治期における脚気の歴史 山下 政三 二二〇〇円

衆議院委員会議録43 衆議院事務局編 九〇〇〇円
衆議院委員会議録44 衆議院事務局編 九〇〇〇円

■東京電機大学出版局 都築 廣巴 二〇〇〇円
法学〔教養セミナー〕 二二〇〇円

第一種情報処理試験全問題解答集〔六三年版〕 合原 一幸 二四〇〇円
ニューラルコンピュータ―脳と神経に学ぶ― 小林 實 一三〇〇円

野菜工場―いま…これから―〔ハイテク選書〕 西牟田久雄ほか 二二〇〇円

哲学の歩み〔教養セミナー〕 電子・通信工学のための確率論序説〔改訂版〕 Peyton Z. Peebles, Jr. / 平野信夫訳 四二〇〇円

新方式による発変電考え方・解き方〔電験第3種標準解答集〕 多田 省三 二八〇〇円

電気用数字1―代数・図形の基礎―〔新訂版〕

須川 哲雄 二二〇〇円
電気用数字2―複素数・三角の基礎―〔新訂版〕 須川 哲雄 一八〇〇円

第二種情報処理試験全問題解答集〔六三年秋季版〕 須川 哲雄 二四〇〇円
特殊情報処理試験の徹底研究―傾向と完全対策― 日本ユニシス情報処理システム研究会編 二五〇〇円

システム監査試験の徹底研究―コンピュータ技術者のために― 日本ユニシス情報処理システム研究会編 二〇〇〇円
無線設備管理〔無線従事者国家試験2技1・2通受験教室4〕 松井 信一 一八〇〇円

■東京農業大学出版会 川鍋 祐夫 九〇〇円
図解テキスト「草地・飼料作物学」 二一世紀農業展望―豊かな生活環境の形成のために― 日本農業を考えるシンポジウム委員会 五〇〇円

農場研究報告 日本農業者を考えるシンポジウム委員会 五〇〇円
日本の稲作慣行「田植えの方法」 東京農業大学総合農場 一〇〇〇円

日本の稲作慣行「稲の乾燥方法」 カラービデオ一九分 一〇〇〇円
カラービデオ二四分 一〇〇〇円

■法政大学出版局 カラービデオ二四分 一〇〇〇円
沖縄文化研究14 法政大学沖縄文化研究所編 二八〇〇円

金融のグローバルゼーション―国際金融ネットワークの形成― 法政大学比較経済研究所編 三〇〇〇円
金融のグローバルゼーションII―国際金融センター日本― 法政大学比較経済研究所編 三〇〇〇円

アメリカ J・ポードリヤール/田中正人訳 一九〇〇円
自然の人間の歴史(上) モスコヴィツシ/大津真作訳 三九〇〇円

自然の人間の歴史(下) モスコヴィツシ/大津真作訳 三五〇〇円
火、そして霧の中の信号―ゾラー

意識ある科学 M・セール／寺田光徳訳 四五〇〇円
 アシモフ博士の極地論 I・アシモフ／村上光彦訳 二九〇〇円
 アシモフ博士の新地球論 アシモフ／日下・田平訳 一七〇〇円
 中世北陸の社会と信仰―北陸の古代と中世3― 田平訳 一七〇〇円

同時代 50号 ―第50号発行記念― 浅香 年木 七五〇〇円
 時は迫れり―現代世界の危機への提言― 黒の会編 一二〇〇円
 C・F・フォン・ヴァイツゼカー／座小田豊訳 一三〇〇円
 ユートピアへの勇氣 G・ピヒト／河井徳治訳 一九〇〇円

Application of Ion Beams in Materials Science 瀬部 孝・山本康博編 一〇〇〇円

哲学 38号―特集・目的論の再検討― 日本哲学会編 一一〇〇円
 煉獄の誕生 J・ル・ゴッフ／渡辺・内田訳 五八〇〇円
 人間社会と数学I―数のはなし― 仲田 紀夫 一四〇〇円
 人間社会と数学II―数のはなし― 仲田 紀夫 一四〇〇円
 知識人の終焉 J・F・リオタール／原田・清水訳 一四〇〇円
 オマーージュの試み E・M・シオラン／金井 裕訳 一五〇〇円
 資本論と現代資本主義II カトラール、他／岡崎・他訳 三五〇〇円
 哲学辞典 ヴォルテール／高橋安光訳 九八〇〇円

現代社会とストレス〔原書改訂版〕 H・セリエ／杉・田多井・藤井・竹宮訳 三八〇〇円
 サハラの夏 E・フロマンタン／川端康夫訳 二五〇〇円
 パリの悪魔 P・ガスカル／佐藤和生訳 二四〇〇円
 分子から人間へ S・E・ルリア／渡辺・鈴木訳 一五〇〇円
 ナイルの略奪 B・M・フェイガン／兼井 連訳 二四〇〇円
 伝統と啓蒙―近世ドイツの思想と宗教― 成瀬 治 二五〇〇円
 喜劇とエコロジー J・W・ミーカー／越智道雄訳 一八〇〇円
 科学の時代における理性 ガダマー／本間・座小田訳 一六〇〇円

旅の石工―丹波佐吉の生涯― 金森 敦子 二二〇〇円
 ヨーロッパを考える E・モラン／林 勝一訳 二二〇〇円
 ブルース―複製時代のフォークローア― 湯川 新 一八〇〇円
 ■明星大学出版部
 授業の構造 岸 俊彦 一六〇〇円
 Zwischen Ost West 田中 敏 一二〇〇円
 情報と教育 奥田 昭夫 一三〇〇円
 先端技術概論 岡本 邦彦 三〇〇〇円
 教育行政の原理・組織〔世界の行政制度I〕 小山 俊也 三二〇〇円
 教育制度の形成・発展〔世界の教育制度I〕 小山 俊也 三〇〇円

■早稲田大学出版部
 社会学講義 浜口晴彦・嵯峨座晴夫編 二七〇〇円
 文正の草子 奈良絵本絵巻集第6巻 中野幸一編 一二〇〇円
 オールド・フォーチュネイタス エリザベス朝喜劇10選第3巻 T・デッカー／小野正和訳 一四〇〇円
 構造的暴力と平和―教育・性・職場・マスコミの現場から― 日本平和学会編 一八〇〇円
 〈平和研究叢書3〉
 釈迦一代記・二十四孝 奈良絵本絵巻集第7巻 中野幸一編 一二〇〇円
 現代フランスの教育―現状と改革動向― 原田・手塚・吉田・桑原編 三八〇〇円
 演劇年報 一九八八年版 早稲田大学演劇博物館編 三〇〇〇円
 うつは物語二 奈良絵本絵巻集第8巻 中野幸一編 一二〇〇円
 浄瑠璃集二 早稲田大学蔵資料影印叢書第24巻 鳥越文蔵編 一五〇〇円
 長恨歌・武家繁昌・藤袋の草子 奈良絵本絵巻集第9巻 中野幸一編 一二〇〇円

谷中裁判関係資料集その他 菊地茂著作集第4巻

女番長またの名女怪盗モル エリザベス朝喜劇10選第4巻 六五〇〇円

大江山・堯舜・鉢かづき T・デッカー／山田英教訳 一二〇〇円

日本型管理職層の管理 中野幸一編 一二〇〇〇円

一本菊二・御曹子島渡り・虫の庭訓 奈良絵本絵巻集第11巻 吉川 栄一 四〇〇〇円

馬琴評答集一 早稲田大学蔵資料影印叢書第27巻 中野幸一編 一二〇〇〇円

LAW IN EAST AND WEST/RECHT IN OST UND WEST 柴田光彦編 一五〇〇〇円

■名古屋大学出版部 早稲田大学比較法研究所 二〇〇〇〇円

オーストリア経済思想史研究 八木紀一郎 三八〇〇円

An Introduction to Japanese Kanbun 駒井 明・T・Hローリック 三〇〇〇円

国際取引と法 松井芳郎・木棚照一・加藤雅信編 四五〇〇円

現代の宇宙論 早川幸男・佐藤文隆・松本敏雄編 三八〇〇円

企業会計論 斎藤隆夫編 二五〇〇円

教養市民層からナチズムへ 野田 宣雄 四〇〇〇円

心筋保護法―基礎と臨床― ハース他著／阿部稔雄監訳 一二〇〇〇円

民衆パロックと郷土―南東アルプス文化史紀行― クレツェンバッハー／河野 真訳 三八〇〇円

■関西大学出版部 ジョージ・グロッス―ベルリン・ダダイストの軌跡― 宇佐美幸彦 五七〇〇円

INTERNATIONAL REGULATION OF THE USE OF NUCLEAR

WEAPONS 藤田 久一 九五〇〇円

アメリカ労働史論―ウィスコンシン学派の研究― 小林 英夫 八二〇〇円

沈黙と教説 中観思想研究1 丹治 昭義 五二〇〇円

紀伊半島の文化史的研究 民俗編 横田健一・上井久義編著 七五〇〇円

現代中国語における外来語研究 高名凱他／鳥井克之訳 三五〇〇円

■九州大学出版会 アジア経済の発展と日本の対応 宮川謙三・徳永正二郎編 二四〇〇円

市場機構と公共制作〈経済工学シリーズ〉 田中 廣滋 二四〇〇円

こころの健康と福祉〈久留米大学公開講座2〉 額瀬教三・的場恒孝編 一七〇〇円

長崎外国人居留地の研究 菱谷武平著／出島研究会責任編集 一〇〇〇〇円

図説 人畜共通寄生虫症 宮崎一郎・藤幸治 二八〇〇〇円

伊勢物語・大和物語 その心とカタチ 吉田 達 一〇〇〇〇円

お年寄り―比較文化からみた日本の老人― E・パルモア、前田大作著／片多順訳 一五〇〇円

数と形の文化〈九州大学公開講座19〉 九州大学公開講座委員会編 一八〇〇円

直接原価計算論―機能論的展開と方法― 河野 二男 四五〇〇円

明日の建築と都市 光吉 健次 三八〇〇円

●大学出版部協会役員(1988年9月30日現在)

| | | |
|-----------|-------|-------------------------|
| 幹事長 | 山田 涉 | (東海大学出版会/03-356-1541) |
| 副幹事長 | 山下 正 | (東京大学出版会/03-812-2111) |
| 幹事(総務担当) | 高野 昭吉 | (東京電機大学出版局/03-294-1551) |
| "(") | 加藤千曼樹 | (東海大学出版会/03-356-1541) |
| "(") | 菊地 徳治 | (東京農業大学出版会/03-426-1835) |
| "(") | 後藤 善治 | (東京理科大学出版会/03-235-5692) |
| "(会計担当) | 山國 顕 | (慶應通信/03-451-3168) |
| "(編集担当) | 関野 利之 | (玉川大学出版部/0427-28-3207) |
| "(営業担当) | 阿部 好文 | (法政大学出版局/03-237-7341) |
| "(広報担当) | 棟尾 裕 | (中央大学出版部/0426-74-2350) |
| "(") | 三浦 邦宏 | (明星大学出版部/03-239-3436) |
| "(国際担当) | 城下 幸雄 | (早稲田大学出版部/03-203-1551) |
| "(刊行助成担当) | 山下 正 | (東京大学出版会/03-812-2111) |
| 監事 | 小野沢公男 | (産業能率大学出版部/03-724-9101) |
| 常任顧問 | 中平千三郎 | (東京大学出版会/03-812-2111) |
| "日生財団担当主幹 | 石井 和夫 | (東京大学出版会/03-812-2111) |
| 顧問 | 箕輪 成男 | (愛知学院大学/05617-3-1111) |
| " | 田口迪太郎 | (玉川百科刊行会/03-293-7260) |
| 編集部会(部会長) | 藤村 信行 | (慶應通信/03-451-0931) |
| 営業部会(部会長) | 根本 好男 | (産業能率大学出版部/03-724-9101) |
| " | 惣塚 一雄 | (東京大学出版会/03-812-6862) |
| " | 鎌田 靖彦 | (法政大学出版局/03-237-1731) |
| " | 松岡 茂和 | (東海大学出版会/03-356-1541) |
| " | 唐沢 幹雄 | (早稲田大学出版部/03-203-1551) |
| 国際担当委員 | 中陣 隆夫 | (東海大学出版会/03-356-1541) |
| " | 山口 雅己 | (東京大学出版会/03-815-1900) |

●16大学出版部代表者及び協会・部会等担当者一覧

| | 代表者 | 協会担当 | 編集部会 | 営業部会 | 刊行助成担当 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 北大図書刊行会 | 安井 勉 | 前田 次郎 | 田宮 治男 | 管波 秀樹 | 田宮 治男 |
| 慶應通信 | 道祖土廣一 | 山國 顕 | 藤村 信行 | 高橋 忠身 | 佐藤 武次 |
| 産業能率大学出版部 | 上野 一郎 | 小野沢公男 | 根本 好男 | 山本 一雄 | 小野沢公男 |
| 玉川大学出版部 | 小原 哲郎 | 関野 利之 | 成田 隆昌 | 鈴木 孝雄 | 宮原 正弘 |
| 中央大学出版部 | 澤島 政夫 | 棟尾 裕 | 矢崎 英明 | 古賀 忠夫 | 田中 浩 |
| 東海大学出版会 | 松前 達郎 | 山田 涉 | 木下 正之 | 松岡 茂和 | 三浦 義博 |
| 東京大学出版会 | 菅野 卓雄 | 山下 正 | 佐藤 修 | 惣塚 一雄 | 渡辺 勲 |
| 東京電機大学出版局 | 廣川 利男 | 高野 昭吉 | 岩下 行徳 | 高埜 則和 | 朝武 清美 |
| 東京農業大学出版会 | 西郷 光彦 | 菊地 徳治 | 小平 巖 | 行元 鐵夫 | 藤村 洋 |
| 東京理科大学出版会 | 村上 孝夫 | 後藤 善治 | | | |
| 法政大学出版局 | 青木 宗也 | 阿部 好文 | 秋田 公士 | 鎌田 靖彦 | 平川 俊彦 |
| 明星大学出版部 | 児玉 九十 | 三浦 邦宏 | 丸山とも子 | 三浦 邦宏 | 丸山とも子 |
| 早稲田大学出版部 | 奥島 孝康 | 城下 幸雄 | 寺山 浩司 | 唐沢 幹雄 | 鈴木 吉郎 |
| 名古屋大学出版会 | 藤瀬 浩司 | 後藤 郁夫 | 稲垣美智子 | 伊藤 八郎 | 伊藤 八郎 |
| 関西大学出版部 | 久井 忠雄 | 井内 雄二 | 井内 雄二 | 井内 雄二 | 井内 雄二 |
| 九州大学出版会 | 緒方 道彦 | 藤木 雅幸 | 永山 俊二 | 鳥井 四朗 | 藤木 雅幸 |

大学出版部協会加盟出版部一覽

| | |
|------------|---|
| 北海道大学図書刊行会 | 〒060 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館 TEL.011-747-2308 FAX.011-758-4071 |
| 慶應通信 | 〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL.03-451-3584 FAX.03-451-3122 |
| 産業能率大学出版部 | 〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル4F TEL.03-724-9101 FAX.03-717-4346 |
| 玉川大学出版部 | 〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL.0427-28-3213 FAX.0427-28-3218 |
| 中央大学出版部 | 〒192-03 東京都八王子市東中野742-1 TEL.0426-74-2351 FAX.0426-74-2354 |
| 東海大学出版会 | 〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL.03-356-1541 FAX.03-341-1833 |
| 東京大学出版会 | 〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL.03-811-8814 FAX.03-812-6958 |
| 東京電機大学出版局 | 〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL.03-294-1551 FAX.03-294-2807 |
| 東京農業大学出版会 | 〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL.03-420-2111 FAX.03-706-8851 (総務課) |
| 東京理科大学出版会 | 〒162 東京都新宿区若宮町19 TEL.03-260-4271 FAX.03-260-4294 |
| 法政大学出版局 | 〒102 東京都千代田区富士見町2-17-1 TEL.03-237-1731 FAX.03-237-8899 |
| 明星大学出版部 | 〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL.0425-91-5115 FAX.0425-93-0192 |
| 早稲田大学出版部 | 〒169 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL.03-203-1551 FAX.03-207-0406 |
| 名古屋大学出版会 | 〒464 名古屋市千種区不老町1 名古屋大学構内 TEL.052-781-5027 FAX.052-781-0697 |
| 関西大学出版部 | 〒564 吹田市山手町3-3-35 関西大学会館 TEL.06-388-1121 FAX.06-330-3718 |
| 九州大学出版会 | 〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL.092-641-0515 FAX.092-641-0172 |